

講評

I

出典 掛谷 英紀「学者のウソ」

文系・理系それぞれの学問や学者が抱える諸問題を指摘し、解説した本です。難解な言葉はでてきませんし、論旨も明快ですから、文意をつかむのはさほど難しくありません。

問1【漢字の書き取り・読みの問題】（解答番号は①～⑤）

基本的な漢字です。「有無」はほとんどの人が書けていました。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は⑥・⑦）

空欄①は1行後の「学説の正当性の評価」が、空欄②は2行前の「主体と客体を完全に分離できない場合」や、直後の「外から眺める」がヒントとなります。正答率はそれぞれ6%、65%でした。空欄①で大多数の受験者が「正統性」を選択していましたが、「正統性」と「正当性」は意味が異なります。

問3【空欄補充問題・前後の文脈から適当なものを選ぶ】（解答番号は⑧）

空欄の直前の段落にある注意喚起による予測結果の回避の例としてどれが当てはまるかを考えれば正答は容易に導けます。正答率は41%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑨）

傍線部Aの直前の文をよく読めば正答は容易にわかるはずです。正答率は57%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑩）

傍線部Bの7行前から本文をよく読めば正答は導けます。正答率は56%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑪）

第3段落や2つ後の段落がヒントです。キーワードは「観察」、「実験」です。正答率は23%でした。

問7【指示語の内容を考える問題】（解答番号は⑫）

前後をよく読めば指示語の内容は容易につかめるはずです。正答率は91%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑬）

傍線部Eの前後の文をよく読めば正答が得られます。正答率は69%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑭）

予言の自己成就の例で、取り付け騒ぎと同じ例を選ぶ問題です。正答率は59%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑮）

1つ前の段落に正答が書かれているので1つ前の段落を読めば正答が得られます。正答率は48%でした。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は16）

この節は前節の最後の「文系学問の歴史を追うことで検証してみる」を受けて展開され、最後に「20世紀になると文系学問も急速に科学化されるようになる」と述べられています。この点を的確に踏まえることができれば正答は⑧だとわかります。正答率は22%でした。

問12【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は17）

大多数の受験者が①を選択し、正答率は12%でした。経済予測や経済学の理論的研究がうまくいっていないこと、「予言の自己成就」の問題、注意喚起と予測を混同させる論法など、著者が一貫して話題にしているのは「予測の社会的影響」ではなく「科学としての困難」です。

問13【内容合致問題】（解答番号は18・19）

正答率は①が55%、⑧が58%でした。②や④、⑨を選択している受験者が散見されました。②、③、⑦はいずれも3行目が本文の内容に合致しません。④は第4段落と反対の内容に、また⑤は最後から3番目の段落と反対の内容になっています。⑥は「世界の中で日本だけ」が本文に書かれていない内容です。⑨は本文に「心理学や認知科学などは、…人間を対象にした科学であるとみなすことができる」とあるので間違いです。

II

出典 伊藤 幹治「宴と日本文化—比較民俗学的アプローチ」

デュルケムの聖俗二元論を出発点として、アメリカ・インディアンなどの原住民社会の生活に季節が深く関わっていることを述べた文章です。キーワードとなる「季節」に注意しつつ読めば内容を整理することは難しくありません。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は20～25）

a 隔離 b 妖術 c 繁殖 d 寄稿 e 留意 f 析出

いずれも難解な漢字ではありません。書き取りの練習を日頃から心掛けるとともに文章の内容を踏まえるようにしましょう。

問2【空欄補充問題・文脈把握】（解答番号は26～28）

空欄Ⅰは空欄Ⅱとセットで考えるとわかりやすいです。空欄Ⅱの直後に「強化するための集団的な行事」とあるのがヒントです。正答は①です。空欄Ⅱと対比的な内容が入る空欄Ⅰは集団ではない語が入るので正答は⑤です。空欄Ⅲは傍線部Cの直前の内容がヒントで、正答は①です。

問3【文脈把握と内容理解】（解答番号は29）

傍線部Aの次段落にあるデュルケムの本の内容を理解する必要があります。正答は④です。正答率は26%でした。

問4【文脈把握と内容理解】（解答番号は30）

前段落最終行がヒントです。正答は②です。

問5【文脈把握と内容理解】（解答番号は31）

傍線部Cを含む段落の内容を読めば難しくありません。正答は②です。正答率は35%でした。

問6【文脈把握と内容理解】（解答番号は32）

次段落の内容を理解できれば正答を導くことは難しくありません。正答は③です。受験者の正答率は84%とよくできていました。

問7【文脈把握と内容理解】（解答番号は33）

傍線部Eでは、「狩猟＝採集」に着目していることに注意を促しています。何が足りないかということは、傍線部Eの直後に書かれているので、その内容を理解すれば正答できます。選択肢の間違った箇所を示しておきます。①「モース」②「当てはまるか」④「固執すると～」⑤「可能性も示唆～」⑥「信頼できない」がそれぞれ間違いです。正答率は67%でした。

問8【小見出し・内容把握】（解答番号は34）

季節の分類が他の民族にも適用されることを述べているので、正答は⑥です。正答率は31%でした。

問9【小見出し・内容把握】（解答番号は35）

聖俗の対立についてまとめているので正答は②です。正答率は33%でした。

問10【内容合致問題】（解答番号は36）

正答は③です。それぞれの選択肢の間違ってしている箇所を記しておきます。①「デュルケムの提示した聖と俗の概念は～基本概念」、②「善と悪のように」の例、④「カシム」は宿営地でない、⑤「モースが～注目した」という点、⑥「どこの世界」、それぞれが間違いです。正答率は30%でした。